

宝塚市街路樹管理計画策定の背景と目的(案)

高度経済成長期以降、都市の緑を確保するためにケヤキ等成長が早く、大きな緑量が見込める植栽を推進してきた。道路緑化として街路樹は街の景観形成や環境保全等に貢献しており、その緑陰等は通行者に快適な空間を提供している。

しかし一方で植栽後 40 年以上の経過とともに大木化・老木化が進行してきており、交差点部や信号機・標識の視認性の妨げや歩道の根上り、狭小な幅員形成による通行障害、樹勢衰退・生育障害の発生による倒伏の危険性等が顕著に見られるようになり、将来において安全・安心で快適な道路空間の確保が難しい局面を迎えているのが現状である。

その他にも、本市においても少子高齢化に伴う人口減少時代を迎えるなか、限られた維持管理費でより効果的な維持管理を目指し、持続可能な維持管理をしていくことが求められる。

こうした現状を踏まえ、安全・安心な道路づくり、良好な都市景観の創出、より効果的な維持管理を目指すことを目的に、街路樹管理計画を策定する。